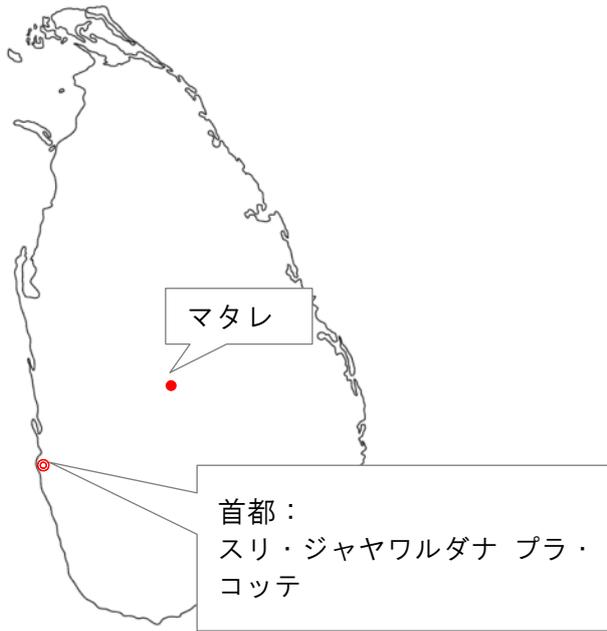


3. 将来を書き換える＝読みに課題を抱える人たちの識字力向上

(1) 活動報告（概要）

		助成元	日本社会福祉弘済会
国名	スリランカ	団体名	Siddhartha Child Development Foundation (シッダルータ児童開発財団)
責任者	Dr. N. K Silva	担当 修了生	ニラーニ (5期) (Nilani Weragoda)
事業名	将来を書き換える＝読みに課題を抱える人たちの識字力向上		
活動地	 <p>マタレ</p> <p>首都： スリ・ジャヤワルダナ プラ・コッテ</p>		
活動報告（目的・内容、成果など）			
<p>1. 支援対象</p> <p>マタレ地区ウィルガムワ支部内の貧困にあえぐ10の村の子ども587名、子どもの親177名、地域のリーダー30名、幼稚園の教員15名、小学校の教員12名、教育や子どもの育成に関連のある政府職員14名。</p> <p>ウィルガムワはスリランカで最も貧困な地域であり、教育水準も低い。本地域の人びとの主たる生計（約90%）手段は米づくり。</p>			

助成金額 30万円

2. 目的・実施理由

a) 10カ所の貧困な村をプログラム実施地とした理由

- ①この地域の子どもの保護者は、自身が教育を受けておらず、子どもたちに教育を受けさせることに関心がない。
- ②スリランカにおいて、教育水準が最も低いとされる。
- ③教員は遠隔地に居住しており、通勤に時間を取られるため、授業時間が制限される。
- ④主要科目の教員数が著しく不足している。
- ⑤極端な貧困により、母親たちが中東の国にハウスメイドの職を求めて、移住する率が高い。
- ⑥森林の境界地域に居住するコミュニティでは、野生の象、毒蛇、蚊などによる危険が不断にある。
- ⑦違法な結婚や早期結婚の発生率が高い。
- ⑧両親の死亡率がかなり高い（腎疾患、自死が主な原因）。
- ⑨父親の70%はアルコール中毒者・薬物中毒者である。
- ⑩DVや子どもの虐待の発生も高率である。

b) 状況打開にむけて

上記のような状況下で、母親と子どもたちが犠牲となっている。

- ・コミュニティの人びとが問題に向き合い、前進できるよう指導するための最優先事項は、コミュニティのエンパワメントである。
- ・私たちの経験ならびに実践をもとに、地域の人びとのより一層の参加を得ながら、この地域の子どもたちの教育水準の改善と生活技術の向上を図ることにより、諸課題を克服する道筋をつけられるものとする。

c) プロジェクト実施目的

- ①支援的かつ包摂的な学習環境の下で、学習に困難を抱える子どもたちの読みの力を向上させる。
- ②学習に困難を抱える子どもたちの家族や地域の支援力を向上させる。
- ③包摂的な教育をすすめられるよう、地域・地区の能力や資源を充実させる。

3. 実施内容

【実施期間】2016年3月～2016年12月

- ①主たる委員の選定/（対象とする）10の村の選定
- ②各村での初期識字力向上地域ミーティングを開催
- ③地域ファシリテーターに説明
- ④教材開発

- ⑤対象 10 村 個別に初期読書力査定の実施
- ⑥Reading Buddies（チームリーダー）の選定と研修の実施
- ⑦プロジェクトの推進者やチームリーダーなどが進捗状況を話し合ったり、表面化した問題の解決策を検討すべく、リーダー層を支援する会合を毎月実施
- ⑧小学校教員を対象とする 2 日間研修の実施
- ⑨対象の 10 村のすべてに子ども図書館を設置
- ⑩地域における読みのワークショップの実施（低予算教材づくりを含む）
- ⑪学校・地域での読みに係るイベントの実施（読みマラソン、フェスティバル、ストーリータイムなど）
- ⑫子どもクラブでの毎週、あるいは 2 週毎のイベントの企画
- ⑬各村においての書類作成・報告についてのワークショップの実施
- ⑭両親の協力のもと、子どもたちによる自宅図書館（自宅のミニ文庫のようなもの）づくり
- ⑮毎月、主要メンバー間の進行状況確認のミーティングの開催

4. 成果

- ①本事業では学習困難を抱える子どもたちも同等のメンバーとして取り扱われる、支援的かつ包摂的学習環境を築くことを可能とした。
- ②学習困難を抱える子どもたちの識字力が著しい成長を見せている。
- ③両親やコミュニティの人たちが、学習困難を抱える子どもたちに関するすべての活動に参加・支援するようになり、食事や材料、労働などの提供による貢献などで、積極的に関与するようになった。
- ④プロジェクトの成果として、子どもたちとコミュニティが低予算でできる読む教材を開発した。また、Reading Buddies とよばれる子どもたちのチームのリーダーたちは会員の子どもの家を訪し、読みに関する活動を実施した。
- ⑤親たちによれば、子どもたちは楽しそうに、かつ集中力をもって読書しており、子どもたちが家で勉強にかける時間が増えたとのこと。
また、約 60%の子どもたちが、今年度末試験で前年度末試験より成績をあげた。
- ⑥本プロジェクト後、図書館の利用度が明らかに増した。

本地域全体を統括する政府高官は、このプロジェクトを非常に特別で重要なものにとらえている。この高官は実施したすべてのミーティングに出席し、他の役人たちにも、プロジェクト完遂に必要とされるすべての支援を提供するよう指示している。

5. 今後の展望

- ①本プロジェクトの支援対象となった村の、少なくとも 60%で、子どもたち、親たち、その他のコミュニティのメンバーは、もし外部からの補助金が終了しても、今後も満足のいくレベルで活動が続けていくことが見込まれる。残りの 40%の村でも、通常レベルでの活動が続けていくことが見込まれる。
- ②SCDF は政府、地方行政の支援を受けつつ、各村々において、しっかりしたモニタリングができる仕組みを構築する予定である。
- ③この価値あるプロジェクトを通じて、子どもたちが学習困難に陥る主たる原因のひとつは、0-5 歳時に、両親や就学前教室の教師が、教育をせずに放置していることが明らかになった。この地域において、子どもの早期発達・教育はほとんど重要視されてこなかったが、SCDF はこの問題を克服する戦略を立て、実行していく予定である。